

第12期 第2回国立市ごみ問題審議会 議事録

日 時 令和2年(2020年)8月21日(金) 午後2時00分～午後4時30分
場 所 国立市役所3階 第4会議室
出席者 山谷会長、山崎副会長、内海委員、楠田委員、隈井委員、十松委員、速水委員、山岸委員
(委員は50音順)
事務局 黒澤生活環境部長、中村ごみ減量課長、豊島清掃係長、河内清掃係主査、安波環境センター所長、岡田清掃係主事

【議事要旨】

1. 国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況の評価について

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況(2019(令和元)年度実績)の行政による評価の(1)家庭系ごみの減量化・資源化の1)発生抑制について事務局から説明した。

【山谷会長】①ごみ減量協力店の利用促進について、ご意見をお願いします。

【十松委員】今年の7月1日からレジ袋が有料化されましたが、ごみ減量協力店やエコショップの認定基準を変える予定はあるのでしょうか。また、認定店での取組成果の公表については、具体的な考えはあるのでしょうか。

【事務局】認定基準については具体的に変わる予定はありませんが、今後検討する必要があると思います。また、認定店での取組成果の公表については、まずは認定店での取組内容を確認し、方法を検討していきたいと思います。

【山岸委員】ごみ減量協力店の店舗数が減っていますが、制度の呼びかけはしているのでしょうか。また、ホームページでごみ減量協力店の利用の促進を呼びかけたとのことですが、ホームページだけではなかなか見ないので、もう少し積極的に呼びかけていただければと思います。

【事務局】制度の呼びかけはホームページに載せている程度なので、エコショップ制度との整合を図ったうえで、呼びかけていければと思います。

【山谷会長】審議会の評価としては、エコショップとの違いを分かりやすく市民に伝えてほしいというところでしょうか。そして、レジ袋が有料化された中で、ごみ減量協力店の良さを生かしているようなことも考えていただきたいというところでしょうか。

【山谷会長】②マイバッグ、マイ箸等の利用促進について、ご意見をお願いします。

容器包装プラスチックに占めるレジ袋の組成比率が年々下がっていますが、市ではどのように見ているのでしょうか。

【事務局】組成比率は年4回、一部のサンプルを切り取って分析したもので、この数字を100%信用することはできないかもしれませんが、マイバッグの利用が進んでいると言えるかもしれません。

【隈井委員】 補足資料の市内スーパーマーケットのレジ袋の有料化の実施状況と辞退率について、Cのお店とFのお店は両方とも有料化を実施していませんが、辞退率はCが8.9%、Fが61.9%となっていて、何か違いがあるのでしょうか。

【事務局】 お店は両方とも一般的なスーパーマーケットです。今回は辞退率を聞いただけで、それ以上の聞き取りはしていないのですが、Cのお店はあまりに辞退率が低過ぎるので、もしかしたら何か別のものと勘違いされているのかもしれませんが。

【隈井委員】 行政による評価の「レジ袋の持参率が低いと思われる」は、「マイバッグの持参率が低いと思われる」でしょうか。

【事務局】 修正します。

【内海委員】 マイバッグキャンペーンはスーパーを対象にしている、コンビニは対象にしていなかったということでしょうか。レジ袋の有料化の調査はコンビニで行っても面白いかと思います。

【事務局】 対象にしていないということではないのですが、今までずっとスーパーの店頭のみで行ってきました。

【山谷会長】 コンビニの場合は本部の意向が非常に強くて、店舗が行いたくても、本部が認めてくれないこととかがあるようです。これから変わってくるのでしょうか。

【十松委員】 行政による評価の「レジ袋の有料化が始まった」は、令和元年度の評価なのでこのままでよいのでしょうか。また、環境フェスタでの「マイ箸・マイ食器・マイコップの持参」は始めてから10年以上になるかもしれませんが、持参率の動向はどのようなのでしょうか。

【事務局】 行政による評価は整理します。また、環境フェスタでのマイ箸・マイ食器・マイコップの持参率は把握していません。

【内海委員】 今後はマイバッグキャンペーンとかは行いづらくなるのではないかと思います、どうされるのでしょうか。

【事務局】 レジ袋が有料化されても、なかなかライフスタイルを変えにくい方もいますし、コンビニでの実施も含めて、様子を見て検討していきたいと思います。

【山谷会長】 使い勝手のよいマイバッグを考案して、イベントのときや市役所に来たときに持ってもらうと、もうちょっとマイバッグの持参が広がっていくかと思います。

コンビニの店頭でマイバッグキャンペーンを行っている自治体は聞いたことがありませんが、行ってみてもよいかもしれません。審議会の評価としては、コンビニの店頭でマイバッグキャンペーンを実施していただきたいというところでしょうか。

【山谷会長】 ③厨芥類の水切りの促進について、ご意見をお願いします。

【十松委員】 エコ・クッキングについては、インターネット上に多くの情報があり、市として進めることも大事ですが、市民もよく知っているのではないかと思います。また、食品ロスが減っていることや利活用されていることが分かるような数字というのはあるのでしょうか。

【事務局】 エコ・クッキングについては、国もクックパッドと連携していて、そこにも多くの情報があります。ただ、やはり無駄をなくすという考え方は市としても進めていきたいので、そういったサイトの案内とかはしていきたいと思います。また、食品ロスが利活用されていることが分かるような数字は、強いて言えば食品リサイクルの量になるのでしょうか。

【隈井委員】農家さんは自分で作っている野菜を無駄にしないための料理をしているのではないかと
思うので、農業振興係と連携して、国立の農家のエコ・クッキングを紹介したら、地元感があって注
目してくれるかと思いました。

【山崎副会長】この施策は市民への促進ということがメインの目標になっていると思うのですが、ご
み収集車のアナウンスは聞いている方が多いと思うので、生ごみの水切りやマイバッグの利用につい
てアナウンスしてもよいかと思いました。

【事務局】他市では食品リサイクルでできた堆肥を地元の農家への還元や、収集車のラッピングとい
う取り組みは聞いたことがあります。どこまで国立でできるかは分かりませんが。

【山谷会長】行政による評価には「食品ロス」という言葉が入っていますが、この施策名にも入れた
ほうがよいでしょうか。

【山岸委員】水切りの紙袋を配っているかと思いますが、紙の穴から水分が出るのはわずかのよう
に感じられ、紙袋は効率的なのか疑問に思いました。

【事務局】まずは興味を持っていただきたいということで、試しに作ってみたものではあるのですが、
少し工夫したいと思います。

【山谷会長】水切りについても、食品ロス削減についても、やはり啓発ですよね。審議会の評価とし
ては、飲食店向けには食品ロス削減とか食べ切り、家庭向けには水切りのさらなる推進といった啓発
を強化していただきたいというところでしょうか。

【山谷会長】④生ごみ処理機器の普及促進について、ご意見をお願いします。

【内海委員】横浜市では、ゴーヤの種を無料で配り、生ごみでゴーヤを育てるということを行ってい
たのですが、ミニ・キエーロ以外の取り組みも行っていたらいいと思います。あとは生ごみ処理器
の情報の発信ももう少しできそうな気がします。

【事務局】今日もミニ・キエーロのモニター事業説明会を行ったのですが、申込は少なくなっ
てきて、ミニ・キエーロに興味がある方には割と浸透してきたのかなと思うのですが、今後は興味
がない方に興味を持ってもらえるように工夫していく必要があるかと思っています。

【山谷会長】キエーロを考案した葉山町の松本信夫さんなどが中心になって、全国普及の会をつ
くりたいということで相談を受けたのですが、千葉県とか静岡県
の自治体で、古だんすの引き出しにふたを乗せるという取り組みをしているところがありました。リユースの一環でもありますよね。国立市もミニ・キエーロだけにこだわることなく、いろいろと間口を広げてもよいかもしれません。土に親しむということは癒やしにもなりますよね。

【山崎副会長】ペットの排泄物もごみとして多く出ているかと思うのですが、コンポストのよう
に発酵させて土に返すというものも売られているようです。結局は市民にいか
に情報を提供するかということだと思います。ミニ・キエーロの良さも、まだ知らない方がたくさんいるか
と思いますので、何とか市民にお知らせする手段を模索しないといけないか
と思います。

【山岸委員】ミニ・キエーロを2年前ぐらいにモニターで頂いて、庭に置いてあるのですが、やはり
ちょっと使い方が分からず、例えば食べ残したパンを入れても、また掘ってみると残っていました。

【山谷会長】調理したものでないと時間がかかりますよね。ミカンの皮などは時間がかかります。

【山岸委員】庭に置いてあるけどたまに使うという方がほとんどで、よく使っている方は数パーセン
トではないでしょうか。

【隈井委員】冬は基本的に消えないですよ。あとは水をちゃんとあげないと消えません。

【山崎副会長】生ごみを細かく刻むか、加熱をして、あとは水分との兼ね合いと空気をよく入れると、早くなりますよね。その辺りの情報が伝わっていないのかもしれないかもしれません。

【隈井委員】ここ何年か、市民の間で情報共有の場を設けるよう審議会で評価していますよね。

【山岸委員】私も2年前に交流する場があればよかったと思ったことを思い出しました。知っている方には当たり前のことも交流する機会がないと分かりませんし、分からないと使わなくなってしまいます。虫が発生してしまっても、自分だけでとどめていると嫌ですが、人と共有できるとよいと思います。

【山谷会長】審議会の評価としては、まずはミニ・キエーロのモニター事業をもっと活発に行っていたきたいということと、次にミニ・キエーロの使い方について分かりやすく情報提供をしていたきたいということですよ。そして、ミニ・キエーロをまだ知らない方がたくさんいるかと思うので、いろいろな機を捉えて宣伝をしていただきたいと思います。

【山谷会長】⑤グリーン購入の促進について、ご意見をお願いします。

【隈井委員】国立市グリーン購入基本方針を策定したことは非常に良い成果で、行政による評価はAでもよいかと思いますが、これはどれくらい強制力があるのでしょうか。また、ガイドラインはできているのでしょうか。

【事務局】これは環境政策課でつくったもので、もともと市はグリーン購入をするということにはなっていたのですが、ここで改めて方針を策定したというものになり、もしグリーン購入をできない場合は、理由書を提出しなければなりません。また、ガイドラインもできています。

【山谷会長】市は率先してするというのでいいと思うのですが、事業者とか市民への働きかけはしているのでしょうか。

【事務局】具体的にはまだ行っていません。

【楠田委員】事務局の皆さんから頂いた名刺に、私たちはグリーンなものしか買いませんということが書いてあるのかと思いましたが、書いていませんね。

【速水委員】グリーン購入というのは初めて聞いたのですが、どのようなものなのでしょうか。

【楠田委員】いくつかやり方はあるのですが、行政当局は環境に優しいもの、エネルギーを使わないものしか買いませんということをアナウンスして、行政当局と物品購入で付き合いのある方は、当然その前提で行動してください、ものを持ってきてくださいということだと理解しています。

【山谷会長】そうですね。これは私が家電量販店で買ってきた再生品でない紙で、これは市役所で使っている再生紙を使った紙ですが、できるだけ再生品のほうを使いましょうということですよ。

【内海委員】単価はどちらのほうが安いのでしょうか。

【楠田委員】昔はリサイクル品の方が高かったのですが、今は変わらないですね。

【山谷会長】ただ、どちらが長もちするかというと、やはり純正品でしょうか。

【山崎副会長】この施策は、最終的には市民や事業者などのグリーン購入への取り組みを推進することになるかと思いますが、市が取り組んだということだけではなく、グリーン購入という制度があります、こういうお店でこういうものが買えますというようなことの市民への情報発信に努めてもよいかと思います。

【山谷会長】そうですね。今の山崎委員の発言の趣旨を審議会の評価としましょうか。

資料に基づき、国立市循環型社会形成推進基本計画に基づく進捗状況（2019（令和元）年度実績）の行政による評価の（1）家庭系ごみの減量化・資源化の2）再使用から4）戻すについて事務局から説明した。

【山谷会長】2）再使用の①リサイクルインフォメーションの利用促進について、ご意見をお願いします。

【山岸委員】リサイクルインフォメーションはホームページで見ることができるのでしょうか。

【事務局】市役所の中に写真を貼っているだけです。ホームページに写真だけでも掲載することとかはできると思うので、そこは検討の余地があるかと思います。

【山崎副会長】この後の施策にも関係してきますが、結局は情報発信ということになるかと思うので、例えばごみのカレンダーにホームページに誘導するようなQRコードを貼ると、リサイクルインフォメーションも含めて利用促進につながるかと思いました。

【山谷会長】今の山崎委員のご意見を審議会の評価としたいと思います。

【山谷会長】②フリーマーケットの支援について、ご意見をお願いします。

【速水委員】商工会でフリーマーケットに出ていたのですが、コロナの影響でできなくなってしまい、ごみとして捨ててしまっています。

【十松委員】今年は環境フェスタは実施するのでしょうか。

【事務局】中止になりました。

【山岸委員】子ども家庭支援センターや児童館などで、不要な洋服などを譲ったり、譲り受けることができたのですが、やはりコロナの影響でできなくなってしまいました。

【山崎副会長】今年はフリーマーケットは実施できないと思うので、インターネットオークションやリサイクルショップなど、他のリユースの手段の情報提供に努めることには意義があるかと思います。

【山谷会長】審議会の評価としては、まずは場の支援をしていただきたいということですね。そして、引き続き情報発信をしていただきたいということでしょうか。

【山谷会長】③リサイクル家具等の販売の推進について、ご意見をお願いします。

国立市の場合は他の自治体のように展示会場がなく、「ゆーから」というお店での販売が中心ですが、販売点数はかなり多いかと思います。

【隈井委員】リサイクルセンターの施設の耐用年数はあとどのくらいなのでしょう。（仮称）リサイクルプラザというのがどのような施設になるのかは分かりませんが、販売と修理を行う拠点だとしたら、建て替えも必要なのではないかと思いました。

【事務局】今後2回の改修を行うことで、あと40年くらいです。

【山谷会長】リサイクル家具の配送は行っているのでしょうか。

【事務局】リサイクル家具販売会の際に販売したものは、市内に限り配送しています。

【山谷会長】最近、ある自治体のリサイクルプラザを見たのですが、物の値段の隣に配送料も書いてあり、シルバー人材センターが運用しているということで、よいシステムだと思いました。

【楠田委員】コロナの関係で粗大ごみがたくさん出て、リサイクルできるものもあり余るほどあるかと思うのですが、どうなのでしょう。

【事務局】粗大ごみは多いです。リサイクルできるものもたくさんあるのですが、どうしてもさばき切れず、処分せざるを得ないという状況なので、何かしら販売できる場所は欲しいです。

【十松委員】リサイクル家具の写真はどこかに貼られているのでしょうか。

【事務局】ありません。「ゆーから」で現物を見ていただくしかありません。

【隈井委員】ニーズと提供するほうのアンマッチが大きいと思うので、ニーズを募集したほうがよいのではないかという気もします。欲しいものを先に把握しておいて、それが出てきたら連絡して、修理して渡したほうがうまくいくのかもしれない。

【山崎副会長】リサイクル家具の情報をホームページに掲載することはできないのでしょうか。写真まで貼らなくても、こんなものが出ました、興味のある方はここに問い合わせしてくださいということだけでもいいので。

【事務局】それくらいはできそうですね。

【山谷会長】審議会の評価としては、改めてリサイクルプラザの設置について検討していただきたいということですね。

【隈井委員】単純に造ると施設が増えてしまうので、リサイクルセンターの更新を兼ねてということを入れておいたほうがよいかと思えます。

【山谷会長】そうですね。あとは情報発信の工夫をしていただきたいということですね。

【山谷会長】3) 直すの①修理、修繕行動の促進について、ご意見をお願いします。

【十松委員】文言の問題ですが、計画内容の文章に「の」がすごく多いので、「『ものを大切にする心』の意識醸成促進のための情報発信」でよいのではないのでしょうか。

【事務局】修正します。

【山岸委員】環境フェスタでのシルバー人材センターによる包丁研ぎは無料で行われているのでしょうか。

【事務局】そうですね。事前に申込みしていただく分と、当日受付する分があるのですが、当日受付する分は環境フェスタが始まった直後にいっぱいになってしまっています。

【山岸委員】おもちゃ病院もよいと思いました。自分では直せないような壊れたおもちゃでも、直してもらえることがあると思います。

【山谷会長】リペアについては、国立市の取り組みは先を行っているという感じがします。審議会の評価としては、これからも取り組みを積極的に推進していただきということでしょうか。

【山谷会長】4) 戻すの①くにたちカードの利用促進についてご意見をお願いします。

【十松委員】行政による評価の「リデュースの観点から計画の内容を見直す」というのは、具体的にどのような意味なのでしょうか。

【事務局】くにたちカードのエコロジーポイントは牛乳パックの持参と買物袋の持参に対して付与されていて、この計画を策定したときは、牛乳パックのほうに重点を置いて、リターンの項目に載せていたと思うのですが、今は牛乳パックが終わり、買物袋のみになっていて、買物袋の持参はリデュースになるため、リデュースの観点から計画の内容を見直す必要があると思われるという意味で書いています。文章は見直します。

【内海委員】施策の方向性が「見直し（縮小・廃止）」となっていますが、なぜでしょうか。

【事務局】この施策をリターンの項目に残すかどうかという意味で見直しとしています。引き続き制度の情報の発信は行っていく必要はあるかと思います。

【内海委員】市から助成金とかを出すということではないのですね。

【事務局】昨年度の審議会の評価にもあったのですが、難しいかと思います。

【山岸委員】くにたちカードのエコロジーポイントは今後も続くのでしょうか。

【事務局】やめるという話は聞いていません。

【山谷会長】審議会の評価としては、レジ袋有料化の下でも、一定のインセンティブを提供し、長年にわたって市民に親しまれてきた制度でもあるので、引き続きこの制度の奨励をしていただきたいというところでしょうか。

【山谷会長】②販売店等での資源回収の促進について、ご意見をお願いします。

エコショップへの期待というのは結構大きいかと思います。ごみ減量協力店の制度は10年くらい前からありましたが、認定のハードルをやや高くして、その代わり、環境によい取り組みをしたお店には、有料ごみ処理袋の取り扱いの委託料を手厚くするという制度に仕上げたということです。

【山岸委員】エコショップのリストを見ると、すごく身近なお店もあったのですが、エコショップだったとは知りませんでした。ロゴマークとかはないのでしょうか。

【事務局】ステッカーがあり、見えやすいところに貼るようお願いしています。

【山崎副会長】もう少し市民に知らせてくれたらよいかと思います。

【山谷会長】そうですね。審議会の評価としては、しっかり市民に伝えていただきたいということですよ。そして、活動報告書を出してもらうことになるかと思いますので、特に優良なお店は、お店の了解も得て、ホームページで紹介していくということにも取り組んでいただきたいということでしょうか。

2. 国立市災害廃棄物処理計画（素案）について

【十松委員】災害ごみもまずは分別をしなければならないということですが、実効性はあるのでしょうか。言い方は悪いかもしれませんが、絵に描いた餅にならないか心配です。

【山谷会長】イメージとしては、家庭の中のごみというよりは瓦礫ですよ。東日本大震災の際に一次仮置場、二次仮置場などを見学させていただきましたが、結構きちんと分別されていました。もちろん持ち込む方も分別をして持ってくるのですが、仮置場では、自動車でも回りながら、これはそっちに下ろして、こっちに下ろしてというイメージですよ。

【十松委員】発災後はすごく混乱していると思うので、ちゃんと指示ができる人がいるのかという、不安がすごくあり、計画づくりと同時に人脈づくり、組織づくりもしたほうがよいかと思います。

【山谷会長】混合廃棄物にならないように、きちんと仮置場の中でも場所を決めて、品目ごとに置いてもらわないと、循環型のごみ処理をしていくことができなくなってしまいますよね。

【隈井委員】55ページの「教育、訓練、継続的な計画の見直し」に職員の教育、訓練のことは書いてあるのですが、市民への啓発活動や教育とかがないので、ここは追記しておかないと、十松委員の懸念がそのまま現実になってしまうのではないかと思います。

【事務局】そうですね。この計画はつくったら終わりではなく、どう活用していくかがポイントになってきますので、例えば、地域で地区集積所などについて話し合いをしながら、災害時の分別などについてもお知らせしていきたいと考えています。そうすることで、職員の知識とか経験も向上し、市民の方の意識も上がっていくと思います。

【隈井委員】防災訓練の機会もぜひ活用していただければと思います。

【十松委員】私はボランティアセンターに関わっていて、災害ボラセンの立ち上げの基本計画をつくり、シミュレーションを行っているのですが、それでも非常に大変です。日頃、どれだけ市民や職員に向けて訓練をしているかということが絶対に生きてくるので、それを本当におざなりにしないようにして、ぜひ有効性のあるものにしていただきたいと思います。

【楠田委員】少しデータは古いのですが、災害廃棄物処理計画をつくっている自治体は半分くらいでした。絵に描いた餅になるかどうかは分かりませんが、まずは計画はつくらないといけないの、いま計画をつくっていることは非常にすばらしいと思います。

あと、他の災害基本計画、廃棄物処理計画を見ると、民間事業者といろいろな協定を締結していて、それは22ページに書いていますが、例えば、国立市建設業協会が被災して、機械が使えませんとなくなると、瓦礫はどうするのかということになってしまいます。長野市では、一般社団法人日本建設機械レンタル協会と締結を結んでいるのですが、どういうところと連携を組むのか、あるいは協定を結ぶのかということとはよくチェックしておかないといけないと思います。

もう一つは、他の自治体との連携で、他の自治体では、離れたところの自治体と連携しているケースが多いのですが、国立市ではあまりないのが気になりました。近隣の自治体と連携を取っても、そちらでも同じような被害を受けているかもしれないので、そうならないところと連携を取ることが大変重要なのではないかと思います。

最後に、長野市では、思い出の品や貴重品の管理台帳というのを計画につけているのは面白いと思いました。

【山谷会長】総合防災計画を踏まえて、かなり実践的なかたちでまとめられているかと思います。特に14ページから16ページの辺りの対策チームについては具体的に書かれていますので、あとはこれに人をあてれば、何かあったときにすぐ対応できるようなかたちには組み立てられているかと思います。ミニ・キエーロを避難所に設置するというのは国立らしいと思いました。

【山岸委員】災害があったときに、情報がどのように伝達されるのかということが気になりました。訓練のようなことをされる予定なのでしょうか。

【山谷会長】通常のごみ収集がストップして、災害対策のほうに張りつくというようなことも書いていますね。

【事務局】訓練については、現状では特段考えていないのですが、情報伝達は災害時に非常に重要になってくることで、他の自治体でも仮置場や分別について周知されずに、ごみを道路端に出してしまうということが発生しているので、イメージはしていたのですが、そこまで詳しくは書いていません。まずは計画の中に盛り込んで、どのような情報が届くかということを確認していただければと思います。

【十松委員】訓練は絶対にしないといけないと思います。

【山谷会長】日頃の訓練、情報共有、それと連携ですよね。立川断層直下型地震を想定していますが、23区のほうは大した被害を受けていないということも考えられますので、やはり23区と多摩地域

の応援体制が一番鍵になるかなという気もしますね。東京都を介して支援体制をきちんとしておくということですよ。

【隈井委員】地域で話し合いをするとのことですが、町内会の加入率が30%ということはよく考えておいたほうがよいと思います。

(以下、時間の都合上、審議会後に追加でご意見等をいただいた。)

【内海委員】し尿処理について、例えば、バイオトイレの準備・導入などを検討してはいかがでしょうか。実用化の例もあるようです。

【事務局】備蓄するにはスペースが必要となるため、現状では難しいと考えていますが、策定後、協力業者と協定内容を協議するにあたり、災害時に対応できるのか等を確認していきたいと考えています。

【十松委員】全体の印象として「計画」というよりは「指針」や「方針」のような内容に感じます。さらに具体的な行動計画や運用マニュアルといった中身にもう少し触れてもよいのではないかと思います。

【事務局】本計画は、大規模な災害が発生した場合に、災害廃棄物処理において迅速に初期対応ができるように、平時における災害予防対策及び初動対応を中心に示していて、本計画を基に職員研修や市民の皆様との対話、協力業者との連携強化等を行っていきたくと考えています。行動計画やマニュアルといった内容は第3章に記載していますが、運用面を考えて、再度内容を確認します。

【十松委員】「他人事」感が出る表現が頻出する点も気になります。

【事務局】様々な自治体の計画を参考にしながら作成しているため、「他人事」感が出てしまっている部分もあるかもしれません。そのように感じさせないように、再度内容を確認します。

【十松委員】18ページの「定性的に判断して、定期的な見直しの中で定量的な判断を行う」とは具体的にどのような意味なのでしょう。

【事務局】災害時の特に初動期においては、多くの災害応急対応業務が発生し、人員体制を災害廃棄物処理業務のみでは考えることができないため、災害の規模等によって、どの業務に何人ぐらい必要になってくるのかということ組織全体の職員数や訓練等のシミュレーションを重ねて、定期的に見直しを行い、何人必要であるといった定量的な考え方を整理していきたいと考えています。

【十松委員】第2章以降の内容を実効性のあるものにするためには、「定期的な訓練」と「職員や市民への災害時のごみ処理方法の周知」、「他市、他団体との連携」が不可欠だと考えています。そのためにも、この計画に沿った市民・職員の行動計画や実施計画も必要ではないかと思います。

【事務局】まず、本計画において災害廃棄物処理の基本的な考え方や初動期の行動マニュアルをまとめておきたいと考えています。そして、本計画を基に、訓練や職員教育、市民のみなさまとの意見交換、協力業者との連携強化等を重ねながら、今後発生するかもしれない大規模災害に備えていければと考えています。また、各種取り組みを行う中で、より細かい部分や当初と異なってくる部分等が出てくるかと思しますので、随時見直しもしていきたいと考えています。

【十松委員】7ページの図表1-4-2の多摩川水系浸水想定区域図について、平成31年3月付で全戸配布された「くにたちの災害対策」に洪水ハザードマップが掲載されています。内容は同じものかもしれませんが、資料は少しでも新しいものの方がよいと思います。

【事務局】洪水ハザードマップと同様の内容にはなりますが、出典元について担当課に確認します。

【十松委員】 19ページの「複数の通信手段」にSNSも入れたほうがよいでしょうか。

【事務局】 ここは他自治体や関係団体等との通信手段になるので、SNSは入れていません。なお、市民広報に際しては、SNS等を活用して、幅広く広報できるよう、広報担当にも確認して決めていきたいと考えています。

【十松委員】 31ページの「引き渡すかこととなるが」は「引き渡すこととなるが」でしょうか。

【事務局】 修正します。

【十松委員】 災害時によく問題になるデマ情報や怪しい解体業者による「倒壊の危険あり」のような貼り紙、避難家屋の盗難や通電時の火災など、直接災害とは関係のないところで発生する事件や事故などのリスクに関することもどこかの段階で周知されるとありがたいと思います。

【事務局】 避難家屋の盗難等の災害時の廃棄物処理と直接的な関わりがないものに関しては記載することが難しいと考えています。例示していただいた内容は、昨今の災害時に問題として挙がっている事項になりますので、国立市総合防災計画の見直し等の中で、ご意見として反映したいと考えています。なお、怪しい解体業者等については、本計画に関連してきますので、他市の計画等を参考にしながら、損壊家屋等の撤去・解体の部分で記載できるか検討します。

【十松委員】 国立にも多いと思われる高齢者で一人もしくは二人でお住まいの方や、しょうがいをお持ちの方への対応はどのようにされるのでしょうか。

【事務局】 災害ボランティアが大きな力となると考えています。今後の災害廃棄物処理を見据え、災害廃棄物の分別方法や排出方法、保管方法等のボランティアへの周知事項等を社会福祉協議会や福祉総務課、災害廃棄物処理に関連してくることが考えられるボランティア団体と共有する等、平時から連携に努めていきたいと考えています。

【十松委員】 特に南部は農道が道路になっている場所が多いので、水害時の道路寸断は容易に想像されますが、どのような対応されるのでしょうか。

【事務局】 道路啓開については基本的な流れを記載していますが、策定後、道路管理者と協議等を重ねながら、収集運搬体制のシミュレーションをしていければと考えています。

3. その他

(1) 次回以降の日程について

第3回は予定どおり令和2年10月26日（月）の14時から行うこととし、第4回は令和2年11月30日（月）の14時から、第5回は令和3年1月25日（月）の14時から行うこととした。

— 了 —